

札解協 & 北自協と共に20年

創立15周年事業記録誌



平成10年5月撮影(撤去前)利尻島



平成20年5月撮影(撤去後)利尻島



平成20年6月フォーラム会場



基調講演

平成26年10月追加

おまかせください 北海道の廃車リサイクル



北海道自動車処理協同組合

廃車処理は我々の使命

<表紙写真>

(上左) 利尻島における大きな窪みに捨てられた廃車

(上右) 当時の廃車等は完全に撤去され、自然を取り戻した

(下左) 自動車リサイクル環境フォーラム会場

(下右) 基調講演会開催

なお、札幌協・北自協の事業活動報告を「平成19年5月」に制作、その後、両組合並びに個人事業所が関係行政などから多くの受賞を記念して、「平成23年6月」増発制作に至る。

改めて、関係行政並びに関係団体更に組合員、賛助会員等に感謝を申し上げます。

問い合わせは、

北海道自動車処理協同組合

事務局 札幌市白石区菊水元町1条2丁目2番6号

電話 (011) - 871 - 8777

FAX (011) - 871 - 8711

目 次

| | |
|-------------------------------------|----|
| なぜ中小企業者に組織（法人）を必要か | 1 |
| 道内における自動車解体業の組織化 | 2 |
| 日本自動車中古部品協会札幌会 | 2 |
| 札幌地区自動車解体処理協同組合創立総会 | 3 |
| 札幌地区自動車解体処理協同組合設立披露祝賀会 | 3 |
| 札幌地区自動車解体処理協同組合組合員役職名・理事名簿 | 4 |
| 札幌地区自動車解体処理協同組合組合員名簿 | 5 |
| 札幌地区自動車解体処理協同組合組合員名簿 | 6 |
| 旭川地区自動車解体処理協同組合設立披露祝賀会 | 7 |
| 札幌地区自動車解体処理協同組合防火実技講習会 | 7 |
| 廃自動車解体時の出火防止指導要綱 | 8 |
| 廃自動車解体時の出火防止指導要綱 | 9 |
| 札幌協廃掃法による新規許可講習終了書 | 10 |
| 札幌市と放置車両の処理に関する協定書 | 11 |
| 札幌市豊平区の月寒公園に放置されている車両問題 | 12 |
| 札幌協、廃タイヤ処理及び廃車処理懇談会 | 14 |
| 北海道廃タイヤ再資源化会議委員会を発足する | 14 |
| 廃タイヤ再資源化に対する要綱 | 15 |
| 北海道における廃タイヤ再資源化会議委員に委嘱書 | 16 |
| 集団化工業団地建設計画及び放置車両対策について桂札幌市長訪問 | 17 |
| 北海道リハビリー廃タイヤ処理事業 | 17 |
| 北海道自動車処理協会を発足 | 18 |
| 北海道自動車処理協会設立総会 | 18 |
| 札幌市フロン回収推進協議会設置要綱 | 19 |
| 札幌市フロン回収推進協議会委員を委嘱書 | 20 |
| 札幌市における特定フロンの回収事業に先駆けフロン回収機器の覚書を交わす | 21 |
| 札幌市における特定フロンの回収モデル事業 | 22 |
| 廃掃法改正に伴うリサイクル事業技術開発研究会 | 23 |
| 札幌協活路開拓ビジョン調査事業 | 24 |
| 北海道自動車処理協同組合設立総会 | 26 |
| 北海道自動車処理協同組合役員名簿 | 28 |
| 北海道自動車処理協同組合組合員名簿（札幌西支部） | 29 |
| 北海道自動車処理協同組合組合員名簿（札幌東支部） | 31 |
| 北海道自動車処理協同組合組合員名簿（空知支部） | 32 |
| 北海道自動車処理協同組合組合員名簿（室蘭支部） | 33 |
| 北海道自動車処理協同組合組合員名簿（旭川支部） | 35 |
| 北海道自動車処理協同組合組合員名簿（函館支部） | 37 |
| 北海道自動車処理協同組合組合員名簿（釧路支部） | 38 |
| 北海道自動車処理協同組合組合員名簿（帯広支部） | 39 |
| 北海道自動車処理協同組合組合員名簿（北見支部） | 40 |
| 北海道自動車処理協同組合平成22年度役員組織図 | 41 |
| 北海道自動車処理協同組合賛助会員名簿 | 42 |
| 札幌市北消防署災害救助訓練に参加し受賞を受ける | 43 |
| 北海道リハビリー小端武治室長古タイヤ再資源化事業の功績による受賞 | 43 |
| 外川講師を招き（自動車リサイクルの現状と課題）についての講演会 | 44 |
| 札幌協が廃クーラント再生機を2台導入する | 44 |

| | |
|--------------------------------|----|
| 苫東リサイクル施設導入検討会発足 | 44 |
| 第1回使用済自動車の環境とリサイクルのフォーラム | 45 |
| 秋田県自動車解体処理協同組合創立総会 | 46 |
| 第2回使用済自動車の環境とリサイクルのフォーラム | 47 |
| 札幌市消防局による普通救命講習会 | 47 |
| 離島における資源ごみ再資源化会議(第1回) | 48 |
| 離島における資源ごみ再資源化会議(第2回) | 48 |
| 離島における資源ごみ再資源化事業に取り組む事前調査(委員) | 49 |
| 札幌市よりフロンガス回収機の貸与を受ける | 50 |
| 離島における資源ごみ再資源化事業に取り組む事前調査(北自協) | 51 |
| 離島における資源ごみ再資源化会議委員を委嘱(委嘱書) | 52 |
| 離島における資源ごみ再資源化事業に取り組む結成式 | 52 |
| 離島における資源ごみ再資源化事業開始 | 52 |
| 利尻富士・利尻町自動車の投棄を防止する条例 | 57 |
| 利尻富士・利尻町自動車の投棄を防止する条例施行規則 | 58 |
| 利尻島における資源ごみ再資源化事業参加組員 | 59 |
| 利尻島における資源ごみ再資源化事業持参機器類 | 60 |
| 利尻島における資源ごみ再資源化事業結果 | 61 |
| 利尻島廃車処理回収拠点及び搬出港概算距離見取図 | 62 |
| 環境へ貢献、積極的に(北海道新聞) | 63 |
| 北海道知事・利尻富士・利尻町長から感謝状と慰労 | 64 |
| 離島における撤去作業に従事した組員に対するねぎらい | 66 |
| 特定フロン回収に関する確認書 | 67 |
| 北海道環境生活部がフロン回収事業に取り組む | 68 |
| フロン回収取次店(北海道フロン対策推進会議)ステッカー | 69 |
| フロン回収回収店(北海道フロン対策推進会議)ステッカー | 69 |
| フロン回収・処理にご協力をお願い、チラシ(表) | 70 |
| フロン回収・処理にご協力をお願い、チラシ(裏) | 71 |
| フロン回収事業を強化(陸運情報社提供) | 72 |
| 北自協は、フロン回収破壊法を前倒し、回収事業に取り組む | 73 |
| 環境道民会議発足式 | 74 |
| 札幌地方自動車整備振興会主催環境展 | 74 |
| 第3回使用済自動車の環境とリサイクルのフォーラム | 75 |
| 日産グリーンパーツ発進 | 75 |
| 北自協、平成11年度労働環境改善フィージビリティ調査事業 | 76 |
| 第4回使用済み自動車の現状と今後について | 77 |
| 道運輸局による廃車処理の現状と課題について(札幌陸運支局) | 78 |
| 道運輸局による廃車処理の現状と課題について(帯広陸運支局) | 78 |
| 道運輸局による廃車処理の現状と課題について(北見陸運支局) | 78 |
| 道運輸局による廃車処理の現状と課題について(札幌陸運支局) | 78 |
| 環境道民会議において自動車リサイクル業界の現状を報告 | 78 |
| リサイクル推進功労者表彰賞の受賞を知事に報告に行く | 78 |
| リサイクル推進功労者表彰賞記念祝賀会 | 79 |
| 日本ELVリサイクル推進協議会設立総会 | 79 |
| 日本ELVリサイクル推進協議会役員名簿 | 81 |
| 有珠山が22年ぶりに噴火した | 82 |
| 交通事故による車輛の衝突破壊実況訓練 | 82 |
| フロン回収破壊法に関する説明会 | 83 |
| 北海道は、廃自動車適正処理対策協議会を設置 | 83 |
| 北海道資源リサイクル推進会議委員委嘱書 | 84 |
| 平成13年度北自協総会に引き続き講演を開催 | 85 |

| | |
|------------------------------------------|-----|
| 日産部品札幌販売株式会社より感謝状を受賞 | 86 |
| 使用済み自動車の再資源化等に関する法律(案)が可決、成立した | 86 |
| 第1回自動車リサイクル適正処理検討協議会開催 | 87 |
| 自動車リサイクル法を踏まえて長期保管車輛の撤去作業が進んだ | 88 |
| 産業廃棄物の保管施設ガイドライン | 91 |
| 使用済み自動車リサイクル・セミナーに先駆け苫東工業団地見学 | 95 |
| 使用済み自動車リサイクル・セミナー(財団法人道央産業技術振興機構) | 95 |
| 自動車リサイクル適正処理協議会第1回部会 | 96 |
| 第1回自動車リサイクル適正処理検討協議会出席者名簿 | 97 |
| 第1回北自協とSSGが協賛講演会を開催(自動車リサイクル法案) | 97 |
| 北海道自動車リサイクル適正処理対策協議会開催 | 98 |
| 第1回道央産業技術振興機構主催先進地視察 | 99 |
| 環境省廃棄物・リサイクル対策室長が解体現場を視察 | 99 |
| 自動車解体業者が産業分類の指定を受ける | 100 |
| 北九州ELV協同組合(再資源化工場落成) | 100 |
| 札幌協南可昭理事長が勇退、新理事長に石上剛氏を選任 | 101 |
| 第14年度北自協通常総会、道青木環境生活室長から祝辞を | 102 |
| 株式会社マテックがELV適正処理解体工場を落成 | 103 |
| 苫小牧市における使用済み自動車リサイクル施設立地推進協議会 | 103 |
| 新法に実感を反映 | 104 |
| 北自協における見学研修 | 104 |
| 第2回道央産業技術振興機構主催先進地視察 | 105 |
| 北自協主催「自リ法」説明会の前日 | 105 |
| 北自協主催自動車リサイクル法説明会 | 106 |
| 北海道主催自動車リサイクル法説明会 | 106 |
| 廃棄物学会北海道支部第4回セミナー | 107 |
| 経産省・環境省主催自動車リサイクル法に関する説明会 | 108 |
| 間もなく任期を終える堀達也北海道知事を | 108 |
| 音威子府村における長期放置車輛撤去作業 | 109 |
| 自動車リサイクル法とISOに関する研修会 | 109 |
| 北自協理事会に柴田真年主幹を招き「自リ法」に関する勉強会 | 110 |
| 株式会社エス・エス・ジー貫処理(リポ)工場完成 | 111 |
| 経済産業省主催「第2回自動車リサイクル法」全国説明会 | 111 |
| ビジネスEXOの前日、北自協・道外の解体業者代表者と懇談 | 112 |
| ビジネスEXO(技術フォーラム特別講演)開催 | 112 |
| 第1回北海道自動車リサイクル推進協議会設立 | 113 |
| 北海道自動車リサイクル推進協議会設置要綱 | 114 |
| 北海道自動車リサイクル推進協議会構成員 | 115 |
| 北海道自動車リサイクル推進協議会(長期保管等使用済み自動車対策検討部会設置要綱) | 116 |
| 函館市環境生活部と解体施設に関する懇談会を開催 | 117 |
| 自動車リサイクル法に伴う関係行政(北自協札幌支部)との意見交換会 | 118 |
| 自動車リサイクル許可講習会 | 118 |
| 株式会社エルバ北海道落成式 | 119 |
| 第3回自動車リサイクル法全国説明会 | 119 |
| 北自協が環境マネジメント(ISO14001)に取り組む | 120 |
| 日本自動車工業会主催エアバッグ回収破壊講習会 | 120 |
| 第2回北海道自動車リサイクル推進協議会開催 | 121 |
| 環境省・経産省主催「自動車リサイクル法」説明会 | 121 |
| 札幌市定山溪温泉入口の長期放置車輛の撤去作業(第1回) | 122 |
| 石狩市親船の長期放置車輛の撤去作業 | 123 |
| 第2回北自協とSSGが協賛講演会を開催(自動車リサイクル) | 124 |

| | |
|----------------------------------------|-----|
| 第3回北海道自動車リサイクル推進協議会開催 | 126 |
| 使用済自動車の再資源化等に関する法律以下、自動車リクル法が本格施行 | 127 |
| 自動車リサイクル法の目的 | 128 |
| 第4回北海道自動車リサイクル推進協議会開催 | 129 |
| 自動車リサイクル法の本格施行に伴う解体業界 | 129 |
| 札幌市は「自り法」の本格施行に伴う市街化調整区開発行為について審議基準を作成 | 131 |
| 札幌市開発許可等審議基準第18条(15)改正条文 | 131 |
| 他、市町村によっては、開発基準が異なる場合がある | 134 |
| 白老町の解体業者がリサイクル法違反で逮捕 | 134 |
| 札幌市定山溪温泉入口の長期放置車両の撤去作業(第2回) | 135 |
| 羽幌町における長期放置車両撤去作業(第1回) | 135 |
| 第5回北海道自動車リサイクル推進協議会開催 | 136 |
| 自動車リサイクル制度に関する説明会 | 137 |
| エアバッグ処理委託契約者対象事前調査 | 138 |
| エアバッグ破壊に関する説明会 | 138 |
| エアバッグ類取外回収時のご注意 | 140 |
| 南理事長北海道社会貢献賞受賞式 | 141 |
| 平成18年度北自協総会並び基調講 | 142 |
| 基調講演、演題「自動車リサイクル行後の現状と分析」 | 143 |
| 南理事長知事表彰受賞を祝う会 | 144 |
| 南理事長知事表彰受賞を祝う会次第 | 145 |
| 南理事長北海道社会貢献賞受賞祝う会 | 146 |
| 外川先生を囲む勉強会 | 147 |
| EU諸国を輸入国又は通とする中古部品の輸出規制 | 148 |
| 羽幌町における長期放置撤去作業(第2回) | 150 |
| 天塩町における長期放輻撤去作業 | 150 |
| 小型フォークリフトの講習会 | 151 |
| 特定自主検査関連 | 151 |
| フォークリフトの定期自主検査 | 152 |
| 廃棄物処理委託業者の作業現状確認 | 153 |
| 委託契約処理業者様会社見学の報告 | 154 |
| 自動車リサイクル法に関する行政連絡会議前日 | 155 |
| 自動車リサイクル部品普及促進キャンペーン | 155 |
| 自動車リサイクル部品の利用促進に向けた(P R活動の実施について) | 156 |
| 自動車リサイクル促進のため広報活動について | 157 |
| 未来の地球と環境を守ろう | 160 |
| 全国統一リサイクル部品普及キャンペーン | 161 |
| 9月1日は全国防災の日 | 162 |
| 北海道警察本部と災害時における支援協定を締結 | 163 |
| 北海道警察本部による災害救助訓練 | 163 |
| 北海道警察と北自協との災害時における支援協定書 | 165 |
| 紋別市における長期放置車両の撤去作業 | 166 |
| 南理事長循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰式 | 167 |
| 平成18年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰受賞者 | 168 |
| 南理事長有限責任法人日本ELVリサイクル機構より感謝状を受賞 | 169 |
| 自動車リサイクル部品普及啓蒙の一環 | 170 |
| 活路開拓事業(成果発表講習会) | 171 |
| 全国ブロック会議にて成果発表講習会(北海道ブロック支部会議) | 171 |
| 自動車解体業のモデルビジョン | 172 |
| 目次 | 173 |
| はじめに | 174 |

| | |
|------------------------------------|-----|
| 平成18年活路開拓事業（講習会テキスト正誤表） | 195 |
| 「自り法」の更新に備えて札幌市環境局との検討会 | 196 |
| 札幌市自動車解体施設等の設置に関する指導要綱（抜粋） | 197 |
| 株式会社エス・エスメジャー創立20年記念講演会と祝賀会 | 200 |
| 広域緊急援助隊等による災害（大規模雪崩）警備訓練計画 | 202 |
| 札幌市清田区管内の長期放置車両に対して撤去を命ずる（措置命令） | 202 |
| 札幌市の要請があれば撤去に取り組む予定 | 203 |
| 学会による不法投棄対策講座 | 203 |
| J A E R A 理事会（18年度最終） | 204 |
| 第6回北海道自動車リサイクル推進協議会開催 | 205 |
| 平成19年度北自協総会並び基調講演会 | 206 |
| 南理事長平成18年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰受賞を祝う会 | 207 |
| 第11回北海道自動車処理協同組合通常総会式次第 | 208 |
| 南理事長循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰受賞を祝う会 | 209 |
| 平成19年度有限責任中間法人E L V リサイクル機構定期総会 | 211 |
| 第3回自動車リサイクラーズ国際会議 | 213 |
| 「E L V」が再資源化機構からインストラクター制度の依頼を受ける | 213 |
| 経産省・環境省両室長との意見交換会 | 214 |
| 北自協幹部が札幌市を訪問、清田区内の不適正廃棄物の撤去に協力要請 | 215 |
| 不適正廃棄物の撤去要請書 | 216 |
| 釧路・北見・帯広支部合同フロン及びエアバッグ回収作業講習会 | 217 |
| 札幌・室蘭支部合同フロン及びエアバッグ回収作業講習会 | 218 |
| 札幌市清田区のごみ回廊に強制捜査 | 220 |
| 「ごみ放置」現場を捜索（朝日新聞） | 223 |
| 札幌市清田区のごみ回廊に強制捜査のまとめられた廃車 | 224 |
| 北海道警察本部主催災害訓練 | 225 |
| 函館支部フロン及びエアバッグ回収作業講習会 | 226 |
| マテックのリサイクルプラント並びに管理型処分場の披露式典 | 227 |
| 道庁広場でリサイクル月間チラシ配布 | 227 |
| 北自協I S O 内部環境監査員育成研修会 | 228 |
| 定山溪温泉入口の廃タイヤの回収事業 | 228 |
| 廃タイヤ五千本撤去（陸運情報社） | 230 |
| 北自協札幌支部における労働安全講習会 | 231 |
| ごみ回廊における、不適正廃棄物等の処理が完了する | 234 |
| 北海道自動車短期大学を訪問 | 235 |
| 「札幌市清田ごみ回廊」行政代執行（北海道新聞） | 236 |
| 北自協ゴミ回廊の廃車163台撤去（日刊自動車新聞） | 237 |
| 自動車リサイクルサミットの開催めざす | 238 |
| 「E L V リサイクル機構、インストラクター全国大会を開催」 | 240 |
| 第7回北海道自動車リサイクル推進協議会開催 | 240 |
| 甘利経済産業大臣との対話 | 241 |
| 札幌市東区地域における廃タイヤ原状調査 | 242 |
| 北自協組合員による美化運動 | 242 |
| 経済産業省自動車課高橋リサイクル室長との懇談会 | 243 |
| 北海道自動車処理協同組合理事会 | 243 |
| 北海道自動車処理協同組合第12期通常総会 | 243 |
| 有限中間責任法人日本E L V リサイクル機構定期社員総会 | 244 |
| 「自動車リサイクル環境フォーラムin北海道」公式ガイドブック | 245 |
| 実行委員会組織図 | 246 |
| 「自動車リサイクル環境フォーラムin北海道」が開催される | 247 |
| 不都合な真実上映 | 248 |

| | |
|---------------------------------|-----|
| 神の子たち上映 | 249 |
| 来賓並びリサイクル業者による懇親会 | 250 |
| 「自動車リサイクル環境フォーラム in 北海道」基調講演会 | 251 |
| 高い関心反映1500人来場(日刊自動車新聞) | 252 |
| 北自協の提唱に大反響(陸運情報社) | 253 |
| 日本ELVニュース | 254 |
| 日本ELVニュース | 259 |
| 日本鉄リサイクル工業会北海道定時大会 | 260 |
| 北海道中小企業団体中央会総会(石上剛元札幌協理事長)会長賞受賞 | 260 |
| 「全国防災の日総合訓練」に参加 | 260 |
| 札幌地区自動車解体処理協同組合が解散 | 261 |
| 札幌市東区における長期不適正廃タイヤ撤去作業 | 262 |
| 北自協、2万本廃タイヤ撤去(北海道・毎日新聞) | 262 |
| 利尻町・利尻富士町を訪問 | 263 |
| NGP総会で斉藤環境大臣と名刺交換 | 264 |
| HVバッテリーなどをテーマに講習会 | 265 |
| 北海道洞爺湖サミット道民会議から感謝状 | 266 |
| 静岡県自動車解体協同組合主催交流会 | 267 |
| 自動車リサイクル法公開セミナー | 268 |
| 「自り法」による更新の申告状況 | 268 |
| 石狩市親船町における自動車廃棄物の堆積現場 | 269 |
| 天売・焼尻島の長期不適正車両等の撤去要請の打診 | 269 |
| 天売・焼尻島の長期放置車輛の現場写真 | 271 |
| JHR佐藤理事長が「レッカー業」を産業分類業種に | 275 |
| 社団法人日本鉄リサイクル工業会北海道支部定期総会 | 275 |
| 平成21年度北海道自動車処理協同組合総会 | 276 |
| 平成21年度北海道自動車処理協同組合総会式次第 | 278 |
| 北海道自動車処理協同組合総会記事(日刊自動車新聞) | 283 |
| 北海道自動車処理協同組合講演記事(陸運情報社) | 284 |
| 有限責任中間法人日本ELVリサイクル機構社員総会 | 285 |
| 石上車輛がさっぽろ環境賞受賞(日刊自動車新聞) | 287 |
| 有限会社丸一田中商会在「自り法」の更新に備えて開発行為 | 288 |
| 北自協札幌東支部21年度の支部会議を開催 | 288 |
| 北海道道民会議が道庁ロビーで環境展示会 | 289 |
| SAPグループ北海道ブロックがエコカー等の取扱いに関する講習会 | 290 |
| 21年度フロン・エアバッグ適正処理普及講習会(ELV機構) | 291 |
| 21年度全国防災の日北自協札幌支部が参加 | 293 |
| 札幌市総合防災訓練に参加(日刊自動車新聞) | 294 |
| 札幌市総合防災訓練プログラム | 295 |
| 急速に開発されるエコカーの取り組み | 296 |
| 21年度北海道警察本部災害警備訓練 | 297 |
| 災害訓練の恒常化とレッカー車の装備拡大 | 298 |
| 災害時における緊急出動連絡網 | 298 |
| 北海道災害救助活動連絡図 | 299 |
| 第4回不法投棄対策工学講座シンポジウム | 300 |
| 株式会社マテック釧路支店、西港工場落成祝賀会 | 301 |
| 北自協札幌西支部が21年度の支部会議を開催 | 302 |
| 環境、産業行政の支援を要請(日刊自動車新聞) | 303 |
| 第1回自動車リサイクル業界問題研究会 | 304 |
| 「自動車リサイクル業界問題研究会」発足 | 311 |
| 「JAERA」北海道ブロック、平成21年度解体業務研修会を開催 | 312 |

| | |
|-------------------------------|-----|
| 「使用済自動車」適正処理普及講習会開催 | 314 |
| 新政権が掲げる二酸化炭素の25%削減に貢献 | 316 |
| 地域住民が行う交通安全の街頭啓発に協力 | 317 |
| エス・エス・ジー第5回定例オーナー会議が釧路で開催 | 317 |
| 〔株〕南商会取締役会長が北部方面総監賞を受賞 | 318 |
| 丸利伊丹車輛〔株〕北海道ゼロ・エミ大賞受賞 | 318 |
| プリウス分解技術研修会 | 319 |
| HV講習での特別教育に整備専門者が殺到(日刊自動車新聞) | 320 |
| 〔株〕スーパーライン北翔3R受賞 | 321 |
| 日本ELVリサイクル機構の明日を考える会 | 321 |
| NGP日本自動車リサイクル部品事業協同組合懇親会 | 321 |
| 第11回グリーン購入大賞結果発表 | 322 |
| 中古部品の使用によるCO2の削減効果表 | 323 |
| 地球環境保全シンポジウム | 324 |
| 気候変動とフロン問題の現状セミナー | 325 |
| 「使用済自動車の解体に伴うフロン回収事業について」 | 326 |
| フロンガスが及ぼす二酸化炭素(CO2)の換算 | 327 |
| 北海道グリーン・ビズ認定制度、初の受賞 | 328 |
| 「平成21年度第9回通常総会懇親会」 | 328 |
| 『ELV機構、北海道ブロック会議と「自り法」の改正(案)』 | 329 |
| 北自協、佐藤正良副理事長、交通安全緑十字金章受賞 | 330 |
| 北自協、東・空知支部定例会を開催 | 331 |
| 日本自動車リサイクル部品販売団体協議会15年史発行 | 331 |
| 「ELV機構酒井清行代表理事を突然、失う」 | 332 |
| 酒井清行ELV機構代表理事を核に十年 | 333 |
| ELVリサイクル機構酒井清行代表との出会い | 335 |
| 〔株〕久保田オートパーツ久保田氏の単行本 | 336 |
| ELV機構北海道ブロック会議開催 | 336 |
| 第47回環境道民会議企画委員会 | 337 |
| 北海道警察本部による平成22年冬季災害訓練 | 337 |
| 札幌市と路上放置車両の撤去作業に関する更新 | 337 |
| 北自協、佐藤正良副理事長、叙勲祝賀会が盛大に行われる | 338 |
| SSGグループ通常総会開催 | 339 |
| 北自協、札幌管内4支部合同会議 | 339 |
| 環境に優しい自動車関係事業場推進協議会6団体に加盟 | 340 |
| 日本ELVリサイクル機構全体役員会 | 341 |
| 北自協理事会 | 342 |
| 札幌整備振興会通常総会に出席 | 342 |
| 北海道中古販売連合会札幌支部合同懇親会出席 | 343 |
| 一般法人日本ELVリサイクル機構社員総会 | 343 |
| 平成22年度北海道自動車処理協同組合総会 | 345 |
| 関口・畑田両課長補佐を同行組合員の施設を訪問 | 352 |
| 第35回日本鉄リサイクル工業会北海道支部定期総会 | 352 |
| 高齢者雇用促進事業推進会議 | 352 |
| 札幌市環境局環境都市推進部による騒音調査 | 354 |
| 北海道中央会創立55周年記念中小企業団体全道大会 | 354 |
| 平成22年度北海道警察災害整備訓練実施 | 355 |
| エアバッグ生地の再資源化事業 | 356 |
| 22年度全国防災の日に北自協札幌支部が参加 | 356 |
| エコカー補助金制度が終了した | 357 |
| 札幌地区4支部合同会議 | 359 |

| | |
|--------------------------------|-----|
| 古物営業法に関する講習会の開催 | 359 |
| 天売・焼尻島の長期保管車両の撤去作業について | 360 |
| インストラクター技能士認定講習会 | 361 |
| 神奈川県自動車リサイクル事業協同組合を尋ねる | 362 |
| E L V機構主催第2回高齢者雇用促進事業委員会 | 362 |
| シップリサイクル研修会 | 363 |
| 伊丹伊平副理事長が北海道社会貢献賞受賞式 | 364 |
| E L V機構主催第3回高齢者雇用促進事業委員会 | 364 |
| 全道4会場でインストラクター実務講習会を開催 | 365 |
| 地域住民が行う交通安全街頭啓発に協力 | 367 |
| 高齢者雇用促進事業普及啓蒙セミナー(北海道地域) | 368 |
| N G P定期総会懇親会 | 368 |
| 丸利伊丹車輛(株)が循環型社会形成推進功労者環境大臣賞を受賞 | 369 |
| 『北海道グリーン・ビズ認定制度に(株)高橋商会在受賞』 | 369 |
| 北海道カーボン・アクション・フォーラム設立 | 370 |
| 『北海道二輪車商業協同組合創立10周年記念懇親会』 | 371 |
| 北自協札幌4支部主催特別低圧講習会 | 371 |
| 平成22年度札幌市優良工場等表彰を受賞式 | 373 |
| 年内最後の理事会 | 374 |
| 第2回目のエアバッグ生地の再資源化事業 | 374 |
| 札幌地区4支部合同会議 | 375 |
| レアアースのリサイクルの取組み | 376 |
| 平成23年度改正廃棄物処理法説明会 | 378 |
| 高田芳夫氏(株)ホンダカーズ札幌中央代表取締役会長 | 379 |
| 北海道における行政連絡会議の事前で執行部と会談 | 379 |
| 『東日本大震災が発生』 | 380 |
| 東日本大震災による北海道の被害 | 380 |
| 札幌支部4団体による普通救命講習会開催 | 381 |
| 平成23年度SSGグループ通常総会 | 383 |
| 環境に優しい自動車販売・自動車整備工場等表彰式 | 385 |
| 北自協理事会 | 385 |
| 平成23年度オートキャンプ通常総会 | 386 |
| 平成23年度E L V機構第1回理事会 | 387 |
| 東日本大震災支援活動について | 387 |
| 第14回環境道民会議総会 | 386 |
| 『宮城県災害支援活動に参加』 | 386 |
| 北海道中古販売連合会札幌支部合同懇親会出席 | 393 |
| 札幌整備振興会通常総会に出席 | 393 |
| 平成23年度北海道自動車処理協同組合総会 | 393 |
| 南可昭相談役の勇退挨拶 | 398 |
| 第36回日本鉄リサイクル工業会北海道支部定期総会 | 399 |
| 一般法人日本E L Vリサイクル機構社員総会 | 399 |
| 北自協、新執行部が各地区の支部を訪問 | 401 |
| 北自協、臨時総会を開催 | 401 |
| 北自協、臨時総会後南可昭・伊丹伊平氏の勇退慰労会を開催 | 401 |
| 札幌協&北自協と共に20年 | 405 |
| 北自協、南可昭前理事長勇退慰労会式次第 | 406 |
| 南・伊丹両氏の慰労会後日、協栄車両並び伊丹車両を訪問 | 417 |
| 北自協より寸志 | 417 |
| 廃P Pバンパーなどの回収による再資源化事業 | 417 |
| 全国防災の日、北自協が災害訓練に参加 | 418 |

| | |
|-------------------------------------|-----|
| 全国防災の日とは | 418 |
| 有償運送許可取得研修会 | 419 |
| 福島県内の解体業者が被害深刻、放射能でリサイクル部品が停滞 | 420 |
| NGPグループ創立25周年記念式典に佐藤理事長出席 | 421 |
| 伊丹車輛〔株〕伊丹伊平会長環境大臣賞受賞 | 421 |
| 北海学園大学自動車リサイクル研究会出席 | 422 |
| 4支部合同素材(エアバッグ)リサイクル事業 | 422 |
| 4支部合同素材等輸出勉強会 | 422 |
| インストラクター士研修会 | 424 |
| 北自協理事会及び忘年会 | 424 |
| 中古車から高放射線が検出 | 425 |
| 日本ELVリサイクル機構、震災被災車の処理終了 | 426 |
| 平成24年度北海道自動車処理協同組合総会 | 429 |
| 北自協総会后日、小野室長・栗山代表が組合員の施設を訪問 | 443 |
| インストラクター講習会 | 444 |
| 第37回日本鉄リサイクル工業会北海道支部定期大会 | 444 |
| 無許可で自動車解体容疑 | 445 |
| 平成25年度一般法人日本ELVリサイクル機構定期社員総会 | 445 |
| 東日本自動車解体処理協同組合が精緻な分解 | 451 |
| 原発事故で福島の解体事業者に深刻な影響 | 452 |
| 中古車の放射線量測定拡大(北海道) | 453 |
| ELVリサイクル機構が環境大臣賞を受賞する | 453 |
| 有償運送許可取得研修会 | 454 |
| 北自協が素材等の再資源化事業を強化 | 454 |
| 北海道警察本部災害訓練に参加 | 455 |
| 北海道庁より岩手県内の被災廃タイヤ類の処理依頼 | 456 |
| 北海道経済産業局電力課が小規模自家発電に補助制度を導入 | 456 |
| 札幌市総合防災訓練参加 | 457 |
| 岩手県内の被災廃タイヤ類の実態調査 | 458 |
| 経済産業省自動車課の初沢浩樹課長補佐が北自協組合員業況把握 | 459 |
| ELVリサイクル機構が組織初の全体会員交流会を開催 | 461 |
| NGP定期後懇親会佐藤正良理事長が出席 | 462 |
| 2012年度自動車リサイクル連携高度化事業 | 463 |
| 使用済自動車の買取価格について | 464 |
| 標準車種の台当り素材相場価格表 | 465 |
| 陸運情報社記事 | 466 |
| 平成25年度北海道自動車処理協同組合総会 | 467 |
| 平成25年度一般法人日本ELVリサイクル機構定期社員総会 | 483 |
| 一般法人日本ELVリサイクル機構自動車リサイクル士認定講習会 | 487 |
| 北自協理事会並び懇親会 | 490 |
| ELV機構主催「北海道地区」第一回自動車リサイクル士制度認定講習会開催 | 492 |
| 北自協(道ブロック)はELV機構が取組む高度化事業に協力 | 498 |
| 北自協がひき逃げ事件捜査に協力 | 499 |
| 平成26年度北海道自動車処理協同組合総会 | 500 |
| 平成26年度一般法人日本ELVリサイクル機構定期社員総会 | 510 |
| 北自協、精緻な解体視察研修旅行 | 522 |
| ELV機構主催「北海道地区」第二回自動車リサイクル士制度認定講習会開催 | 528 |
| あとがき | 529 |
| 追伸 | 530 |
| 株式会社日刊市況通信社提供年間鉄スクラップ市況推移表 | 531 |

札解協と北自協の事業記録誌を綴るに当たって



札解協&北自協の通算20年間を務めさせて頂きました理事長期間を、記録事業アルバムや自動車関連新聞等を参考に自作で制作しました。

私は、昭和29年夕張市立工業高等学校を卒業、石炭の輸送を主とする夕張鉄道に入社した。当時の夕張は活気が良く全国的に安定した市の経営などで人口は増加、11万人ほどで道内では5番目規模となっていた。

終戦と同時にGHQ(連合軍最高司令官)は、石炭の増産を「経済復興の重点課題」にあげ、政府に対して全国的に新炭鉱開発を促す。当然、夕張も石炭増産に努めた。夕張の石炭の品質は良く、町は活気が良く炭鉱祭りなどで楽しい日々が続いた。昭和21年5月、三菱美唄炭鉱が全国トップでストを行った。その後、炭鉱ストが続発、夕張炭鉱もストを行った。24時間・48時間また一番長いストは100日に及ぶことがあった。ストを行う要因は、賃金闘争や保安闘争などでした。

更に、炭鉱事故があると長期間、石炭の出荷がなくなる。また、落盤事故や坑内火災(ガス爆発)が発生すると、坑口を密閉しなければならないこととなる。政府が石炭産業に見切りを付けたのが、昭和56年10月16日に発生した、北炭夕張新炭鉱ガス突出事故です。当災害は93人の死者を出す大惨事となり、最終的に日本における石炭産業の崩壊を早めました。

現在の夕張市の人口は10,000人を切ろうとして居ります。夕張における過疎化の最大要素は袋小路(山と谷に囲まれる地の利)であることが挙げられる。現在の主たる産業は全国的に知名度を上げた夕張メロンです。

16年間の夕張鉄道生活に見切りをつけ、自動車解体業界に第二の人生をかけました。それから38年を経過。自動車解体業は小規模事業が分散的に静脈産業として支えきた。が、自動車リサイクル法が検討されるに伴い、事業規模が大きく変革の期を迎え様として居ります。資本力や設備拡大事業者の狭間で小規模事業は危機的状況に向かえようとして居ります。もしかしたら、夕張市の様な企業淘汰が訪れるのではないかと案じて居ります。

自動車リサイクル業界は必要不可欠の産業です。組織の交流を遵守することによって社会的認知と安全・安心の事業形態で小規模事業者が小回りを生ずることで救われる企業と思います

ここまで、私を支えて頂いた組合員の皆様並び行政、更に自動車関係団体の協力が全国的に、類のない団体・個人表彰の受賞となったことを照会させて頂く次第です。

当事業活動誌を足早に辿りながら制作しました私が務めました「札解協」&「北自協」の20年の記録を綴りさせて頂きます。なお、私の本業は自動車解体業であることから解体することは出来ませんが組み立てることは苦手ですので誤字などが有りました節にはご指導のほどよろしくお願い致します。

平成25年 7月

北海道自動車処理協同組合

(前)理事長 南 可 昭

はじめに

平素は、自動車解体業界に特段のご配慮ご指導を賜り誠に有難う御座います。半世紀に及び間廃棄車両等について、法的規制がない状況で処理が行われて参りました。自動車は我々の日常生活には無くてはならない乗り物となって居ります。更に、日本経済を支え普及効果はゆうまでもなく、今や、世界をリードする自動車産業国のトップとなって居ります。

その反面、色々な問題点を抱えて居ります。一例を上げると、環境破壊に繋がるフロンガスによるオゾン層破壊が地球温暖化の大きな原因となって居ります。この回収対策においては、平成14年4月1日、(うち、使用済自動車に関して平成17年1月1日以降は「自り法」に移行する)からフロン回収破壊法が施行され、フロンガスが搭載されている機器等が廃棄処分を行う事前で、回収する義務を関係事業者に法的に義務付けられました。

また、廃自動車に関する保管状況が問われて居ります。ゆえることは、法的規制が明確でなく、廃棄車輛を扱う事業者(個人所有者含む)などに対する指導等についても、所有者が有価物であると言い張ると、手のうち用がないのが「自り法」の施行以前でありました。「ごみか、財産か」産廃ごみ、の扱いをめぐり騒動が至るところで起きて居りました。廃棄車輛等に関する問題を解決したのが、いわゆる「自動車リサイクル法」です。施行から6年を経過おおむね順調に推移していると思います。

自動車リサイクル法の安定により、従前から事業を行って参りました業界に大きな問題が発生しました。使用済自動車の流れが大きく変化を来たして居ります。既存事業者の仕入れ先は従来自動車販売店・中古車販売店・修理工場・一般所有者などで有りましたが、昨今はオークション市場などでリース車として扱われることが恒常化されて居ります。先般、産業構造審議会において、「使用済自動車」の定義が発表されました。いわゆる、一見、自動車としての見なすことが出来ない状況である車輛。だが、一方ではオークション市場に出品する「使用済自動車」等に類似する車輛等についてはあくまでも出品者の意向を尊重するとの文言がなされて居ります。

オークション市場を指摘しているのでは有りませんが年式の古い車輛が齎す環境汚染(排気ガス)などを与える影響はエコ自動車を普及する社会環境に逆行するのではないかと思います。

平成21年4月10日から平成22年3月31日までにそれぞれ必要な手続きがなされている新車と廃車が対象となる、補助対象車と補助金制度が閣議決定。条件は、「古い車を廃車して一定の環境性能を有する車を購入する場合、または古い車の廃車を伴わなくとも環境性能に優れた車を購入水没車場合に補助金が交付される」システムが構築された。条件の一端に初年度登録から13年に達した古い車を廃車して、一定の環境性能を有する新車を購入する者に対する補助。

13年の位置づけ、古い車とした理由が出品者の意向を尊重するとの位置づけにあいまいさを感じます。

自動車リサイクル業界は、今後、益々発展を続けて行く反面、少子高齢化社会など自動車産業界は厳しい環境に晒されるとは事実です。日々淘汰の環境の中で組織活動の必要性を鑑みながら「ELV機構」を軸に地方団体が連携を保つ必要をあると感じます。

今後とも、行政並び自動車関連団体等のご支援ご指導をお願い致します。

以上